研　究　紀　要

国　語　部　会

研究発表１
「論理国語「書くこと」でわかる〈知識・技能〉、まわる〈思考力・判断力・表現力〉
―学習指導要領，学習評価，ＤＸ，そして共通テスト―」
青森県立青森中央高等学校　笠　井　敦　司 …… 1

実践発表２
「「遅れている？！国語教育」～精緻な読みと定説化の先にある前進～」
青森県立八戸西高等学校　田　茂　博　之 …… 1

公開授業・研究協議
論理国語　青森県立五所川原高等学校　秋　田　奈　月 …… 5
言語文化　青森県立五所川原高等学校　原　田　仁　弘 …… 6

部　会　の　動　き …… 8

研　究　テ　ー　マ …… 9

紀要編集委員　高　橋　七　海（青森県立大間高等学校）

国　語　部　会

実践発表１

「論理国語「書くこと」でわかる〈知識・技能〉，まわる〈思考力・判断力・表現力〉
―学習指導要領，学習評価，ＤＸ，そして共通テスト―」

発表者　青森県立青森中央高等学校　笠　井　敦　司
講　評　弘前大学教育学部准教授　田　中　拓　郎
弘前大学教育学部助教　市　地　　英
高教研国語部会 部会長　三　和　聖　徳
記録者　青森県立五所川原高等学校　原　田　仁　弘

１　主旨

「習って読んで 使って書いて 話して聞いて わかってくる くるくるまわる国語力」の実践およびその理論について ―― 『論理国語』の授業デザインの提言

２　研究の契機･･･「読むこと」偏重への疑問

（1）経験上，小論文演習を多くこなした生徒は，その後の国語読解力が向上する傾向にある

（2）学習指導要領（新課程）の「内容」:「Ａ書くこと」に 50～60 単位時間程度の配当が必要

つまり旧課程『現代文』のように「読む」だけでは「読む力」は伸びない，ということになる。

３　実践･･･「話すこと･聞くこと」「書くこと」「読むこと」の回廊

◇「論理的に読む・書く（Ａ読むこと）（Ｂ書くこと）」を実践する。

①逆向き設定－基礎に降りていく学び－

ア．“半わかり状態”であえて“使える”レベルの課題に挑戦させる（『R80』の手法）。

イ．生徒自身が自らの“つまずき”から学び，改善する。

②「回廊」の実感（「知識･技能」を「思考･判断･表現」で橋渡し）

ア．ルーブリックによる評価，フィードバックを通して生徒自身も「学力」の成長を実感する。

イ．「単元振り返り」による成長と課題の確認･･･「学びの３階層」完成へ（生徒自身が主体的かつ無意識的に学びを続けていく）。

４　考察（「まとめ」に代えて）･･･新「学習指導要領」は「共通テスト的学力」に寄与しないか？

（1）「令和７年度入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針」から

①深い理解を伴った知識の質を問う問題や，知識･技能を活用し，思考力･判断力･表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視する

②（①に示した知識･技能や思考力･判断力･表現力等を適切に評価できるよう）社会や日常の中から課題を発見し解決方法を構想する場面，資料やデータ等を基に考察する場面，考察したことを整理して表現しようとする場面など，学習の過程を重視し，問題の構成や場面設定を工夫する

とある。

（2）「令和６年度（旧課程）第１問・問６」から

『授業で本文を読んだＳさんは，作品鑑賞のあり方について自身の経験を基に考える課題を与えられ，次の文章を書いた。その後，Ｓさんは提出前にこの【文章】を推敲することにした。･･･』

とある。

以上のことからも，新「学習指導要領」中の『書くこと』に提示されている指導事項とその言語活動が，問題作成および場面設定に反映されていると思われる。必履修科目「現代の国語」の段階から，“習って読んで 使って書いて 話して聞いて わかってくる くるくる回る国語力”を実践する必要があると思われる。

実践発表２

「遅れている？！国語教育」～精緻な読みと定説化の先にある前進～

発表者　青森県立八戸西高等学校　田　茂　博　之
講　評　弘前大学教育学部准教授　田　中　拓　郎
弘前大学教育学部助教　市　地　　英
高教研国語部会　部会長　三　和　聖　徳
記録者　青森県立五所川原高等学校　原　田　仁　弘

１　主旨

本年度から、全学年で「新学習指導要領」に基づく授業が実施されている。ただ，その授業内で取り扱われている教材を吟味すると、不適当な部分や誤りが散見される現状が未だある。これは国語科が抱える特有の問題であり，教育実践に携わる者（＝授業者）が認識・共有することが急務である。日頃から，取り扱う教材に“誤りや不適切さはないだろう”という前提でなく，望ましい方向を教員間で常に共有することの重要性を提案したい。

２　研究のねらい・方法

（１）教科会議における検討

→生徒に不利益や損失・混乱を生じさせないために，扱う教材について，不適当な部分や誤りがないか検討する。指摘された際は，当該箇所について改訂案を提示し，教科内で共有した。その間，当該箇所を保留する（＝取り扱いの対象から外す）。

（２）当該教材について出版社に問い合わせる

→当該教材（当該箇所）の出版社に対し内容の不適切さを問い合わせ，必要に応じて（大学教授にも）意見を求めながら経過を記録，一定の成果が得られた時点で生徒に還元する。

３　研究内容（具体的方策）・・・定番教材「水の東西」をとおして

（１）「水の東西」（教科書準拠ワーク）における“けだるさ”の『理由説明』の矛盾

①２０２０年度版

ア．不適切な設問：“けだるさ”の『理由説明』を<u>一文で指摘させる</u>

イ．出版社編集部による回答：不十分なもの

“理由を含む一文”について、<u>『繰り返し』および『徒労』の二要素が必須</u>である。<u>その上でも，筆者の判断が示される『徒労』の指摘が最重要</u>である

②２０２４年度版

ア．不適切な設問の修正：“けだるさ”の『理由説明』を<u>連続する二文で指摘させる</u>

イ．出版社編集部による回答：受容（ただし該当箇所の変更なし）

<u>多様な解釈が可能な場合，語の言い換えも違和感を持つおそれがある。今後は該当箇所を別な部分に差し替えるか，設問形式の変更を検討</u>する

（２）仮説・・・なぜ上記のような問題が起こるのか

①出版社自体の現状

ア．分業制（出版社）による客観性の欠如

イ．編集力、吟味力の問題

②文章の「書かれ方」が前提されていない可能性

ア．『理由のない』設問に対し理由を問うという設問は，そもそも成立しない

イ．「水の東西」を“評論”として扱い続ける問題点（筆者山崎による指摘も含めて）・・・随筆の位置づけ

上記について今後も，【文章の種類と教材の再検討・吟味】および【文書の種類と教材分析の「定説化」への努力】を怠らないことが肝要である。

4　成果と今後の課題

（1）「吟味読み」の重要性･･･生徒自らが“不適当な回答例”に気づき，適切な解答を導き出すために

（2）教員間の問題点共有･･･教科会議の効果的な活用（「国語教員である」ではなく「国語教員をする」こと）

5　質疑応答ならびに講評（実践発表１，２を併せて）

（1）質疑応答

◇笠井先生の発表に対して：なし

◇田茂先生の発表に対して：

［青森明の星高校・近藤先生］自分も「水の東西」を取り扱う機会が多い。生徒の中には、先生の発表にあったように、出版社の示す解答に疑問を持つ生徒が出てくると考えられるが，教員側の解答と出版社側の解答が食い違った際はどう対処しているのか。

［田茂先生］当該教材（当該箇所）が出てきた際には「この設問（箇所）は問題があるから保留する」という旨を生徒に伝えたうえで，授業者である自分が出版社に問い合わせた経緯も含め生徒に提示する（昨年度だけで３回ほどあった）。その間も，教科会議で当該箇所の問題点を共有し検討し，あるべき方向性を見いだし，生徒の読解力向上の手助けになるよう努めている。先生におかれても是非，教科での共有･検討をお願いしたい。

（2）講評

［弘前大学・田中先生］お二人の発表は壮大な実践事例だと感じる。笠井先生の発表は「『読むこと』と『書くこと』」の関連になっている。これは以前から指摘されていることだが，特に今回はルーブリックによる評価と生徒自身のメタ認知をうまく組み合わせ，“資質・能力の向上”をしっかりと目指していると感じた。本日の発表のように地道な取り組みが必要である。田茂先生の発表についても，十分に納得することが出来た。教材に対して感じた疑問を同僚と共有して検討し，成果を生徒に還元しようという姿勢に素晴らしさを感じた。

［弘前大学・市地先生］笠井先生の発表においては，接続表現に着目させながら授業をしっかりと展開しているところが，参考になる部分が多かった。そして接続表現に注目させるばかりでなく，その意味にあてはまる文の内容についての考察まで実践しているのは素晴らしい。これにより生徒の文章作成能力が上がるのだろうと想像出来る。田茂先生の発表では，改めて“文章というものはどういう種類に分類するべきか”を緊密に考える重要性を確認することが出来た。出版社が便宜的に分けたジャンルではなく，文章というものをどう定義して，教材としてどう取り扱うか考える方向性を示してもらった感がある。

［部会長・三和校長先生］お二方の発表には共通点があると感じる。それは（あたりまえのことではあるが）“生徒の姿がはっきり見える”ということである。笠井先生は授業についてのプロセスを事細かに示している。「どのようなことをするか」・「何を目的にするか」・「（結果として）どのような力がつくか」を示し，その都度，生徒にフィードバックさせており，生徒自身が“何がわかり，何が出来るようになったか”を実感する内容となっている。“教科横断的学び”としても十分応用出来るものと思われる。田茂先生については，「授業者が納得しないものは生徒に提供しない」という部分がとても重要だ。ここには日頃からの厳しい教材研究の裏付けが存在するのは間違いのないところである。教材に厳しく向き合い，検討・協議し（授業者として）納得したうえで，その過程までも生徒に示すことで，生徒自身の「吟味読み」に還元することが可能なのだろうと納得するところである。

研究協議１　論理国語

発表者　青森県立五所川原高等学校　秋　田　奈　月
助言者　弘前大学教育学部教授　　田　中　拓　郎
司会者　青森県立木造高等学校　　奈　良　順　子
記録者　青森県立五所川原高等学校　柿　崎　友　華

１　授業教材

評論『「美しい」を探す旅に出よう』 田中真知　　［高等学校論理国語　補助教材（第一学習社）］

２　授業者より

１学期に学習した『手の変幻』では抽象的表現や筆者独特の言い回しがよく理解できていない生徒が多かったため，今回は筆者の抽象的な主張を自分のことと関連付けて具体的に考えながら読んでほしいと思い，「ことば」に着目させた授業を目指した。

３　協議

（1）授業について

［三沢高校・真坂教頭先生］この問題はオリジナルか。

［授業者］はい。私が空欄を作った。

［三沢高校・真坂教頭先生］いい問題を作っただけでも良い。しかし，いい問題はノーヒントで答えさせた方がいい。指導を積み重ねても，本文を読めたのか，教師の教えたことが分かったのかは疑問だ。積み重ねて外れたら何と言うのか。できた時には教師の言ったことがわかったということになる。自分の思考・判断・表現をフルに使わせて，【思考・判断・表現】がわかる活動が必要である。

［八戸西高校・田茂先生］楽しく拝見した。読むときに通しの行番号はつけさせるべきだ。共通テストも段落同士の関係を問う問題があるため，普段から生徒に認識させる。段落同士の役割は行番号があることで認識できる。授業の問いかけで「面白いと思ったところや重要な文に線を引いて」とあったが，その基準は人それぞれ違う。どうするかというと，授業で黒板にも書いていた「抽象と具体」の関係を使えばよい。詳しい説明，言い換え，理由，例以外の柱の文に着目させ，論理関係を押さえさせる。また，ICT 機器を用意していたならエジプトの金ぴか，シック等の画像を見せてほしかった。私なら画像を見せ，本文中のそれが書いてある箇所を指で押さえさせる。すると自然に答えに行き着くと思う。

［授業者］グループ活動をする際，いつも解答の全体共有をどうしたらよいか悩む。何かよい方法はないか。

［八戸西高校・田茂先生］授業の最後にロイロノートで提出させていたが，それを使うとよい。すぐに共有して間違いを正すことも必要だ。授業で発表させたときに，どこかのグループが助詞の使い方を間違えていた。画面で共有するとそれが明らかになる。試験への対応のためにも，すぐに正しく訂正した方がよい。

［大間高校・三和校長先生］学習計画では『手の変幻』を４時間学習したうえで，『「美しい」を探す旅に出よう』が２時間の扱いになっているが，生徒のできているところとできていないところをどのように感じ，どう授業を計画したか。

［授業者］『手の変幻』では筆者の着眼点や独自の表現を整理しながら論理的文章の基礎的な読み方を学習したが，本文の面白さを伝えられなかったと感じた。そこで，筆者の主張を読み取りながらも自分のこととして意識させたいと思い，この補助教材を選んだ。

［八戸西高校・田茂先生］穴埋めにしている「（　　）によって」は最初の部分を示して「心を（　　）によって」にした方がよかったのではないか。

［授業者］最初はそのように考えていたが，そうすると「心を」につなげる言葉を考えてしまい，例えば「柔軟に」など多くが同じ解答になるのではないかと思った。そこで全て穴埋めにして考えさせ，自分にできることを

具体的に挙げさせる流れに変更した。
［八戸西高校・田茂先生］そうであれば，二段階で考えさせるのはどうか。最初に具体的に挙げさせ，その後「心を（　　）することによって」の穴埋めにすると，より効果的ではないだろうか。

（2）グループでの意見交換（グループワークの実践について）
・グループワークの目的について。特別な発表があるときに行うが，グループワークをさせると時間がかかる。
・意見の集約方法について。黒板に書かせる，発言させる，ICT 機器の使用など様々あるが，テスト問題にする時は模範解答を示す。
・共有の手法について。チャット形式のアプリで意見を出させて教師が選別している。Google Classroom，ロイロノート，付箋等の方法を実践している。
・グループワークの内容は，様々な意見を出させるところまでやっている。
・発問自体がグループワークに値するのか検討が必要。発問で生徒を動かす。最後に解答を示すことは思考を狭めることになるのではないか。また，グループでの解答が正解だったとしても，そのグループの全員が理解しているとは限らない。
・向き不向きの問いがある。生徒の規模や質に応じて方法を検討すべき。
・グループ活動のメリットは，様々な意見に触れることと意見を出し合うことだと考える。
・可視化するのが大事。提出したものを可視化して見比べる。
・問いは明確な答えがないものがよい。個→全体→個の流れが理想。

4　助言者より
高校の授業は見ることがないため，今日の授業でどう解答に行き着くのか指導案を見ながら考えていた。この文章は，この辺りの中学校の教科書に掲載されている『黄金の扇風機』という教材の元の文章である。授業後に，生徒に読んだことがあるか問うと覚えている生徒もいた。授業で扱った「（　　）によって，世界はいくらでも新しい美しさを見せてくれるはずだ。」という穴埋め問題は，私はすぐには解答できなかった。他の人にも解かせたが解答は出てこなかった。中学校の教科書では，「新しい感じ方に対して心を柔軟に開いておくことだと思う。」という一文が最初の方に書かれているため，言い換え問題として解答できるが，授業で扱った文章には書かれていないため答えを導き出すことは困難である。答えを導くためには，段落と段落のつながりを理解することで「心をしなやかに」に行き着く。段落のつながりを意識して指導することが重要である。文章をしっかり読むことが大学受験の読解力になる。この点が中学校と高校の指導の違いだと考える。様々な資料を使い，文章をきちんと読むことが生徒の考えの形成につながる。

研究協議２　言語文化

発表者　青森県立五所川原高等学校　原　田　仁　弘
助言者　弘前大学教育学部助教　　市　地　　英
司会者　青森県立木造高等学校　　秋　元　久　弥
記録者　青森県立五所川原高等学校　竹　浪　廣　美

１　授業教材

『読解を大切にする 体系古典文法』［言語文化　副教材（数研出版）］
「ニューフェイズ古典１＋　十訓抄」［言語文化　補助教材（第一学習社）］

２　授業者より

助動詞と本文との関わりに注目させながら，助動詞が本文全体に及ぼす影響を，協働活動を用いることで確かな読み取りにつなげることを目指した。ただし，予定の半分しか進度が取れず，先生方とともに考える機会を少なくしてしまったのは残念である。

３　協議

（1）授業について

［弘前工業高校・赤平先生］最初からグループ活動をする状態で机が組まれていたが，こういう(調べ学習的な)活動をする際はいつも最初からなのか。

［授業者］はい。クラスが 36 名であり，すぐに４人一組の９グループを作れるため，１つの課題に向かって協働で活動をさせる場合は最初から組ませた状態にしている。

［三沢高校・菅原先生］文法のテキストは『数研出版』で，読解教材は『第一学習社』であったが，違う会社の教材を使って授業を進めることに不具合を感じないか。

［授業者］確かに，各教材会社で文言が少しずつ食い違う場合もあるが，テキストのほうを中心に据えて指導している。補助教材等にあり，文法テキストにない文言が表れた際は，“読解に必要な知識”として文法テキストに書き込ませるように努めている。助動詞は繰り返し課題になる項目であるので，何度も文法テキストと教材とを突き合わせて“見直す”機会を持たせ，定着を図っている。

［田名部高校･岡山先生］助動詞を学習する際に，「き」「けり」はどういうものか，と【知識･技能】について学習させたあとに，今回のように読解教材と関連づけて学習を進めるのか。それとも文法事項自体を取り扱った教材(準拠ノートの設問等)を使い，【知識･技能】の部分を強化する方が先か悩むところである。先生自体はどうであるか。

［授業者］いつもは後者の方法を用いている場合が多い。ただ今回，読解で用いたこの教材は実は初見でなかったため，生徒にとっては復習として取り組めるものと考えられた。そこで授業の目的を予告し，挑戦してもらった次第である。助動詞ごとに，どちらで進めれば効果的に【知識･技能】と【思考･判断･表現】とを結びつけられるかを吟味しながら，ということにしてはいるが，正直，どちらを先にするかはそのとき関わった生徒の学力等で変えざるを得ず，悩むところは共通である。

［八戸東高校･三上先生］授業の導入の段階で「未然形接続の助動詞」と「終止形接続の助動詞」を歌にして覚えるように仕掛けていたが，ふつうであれば「未然形接続」の次に「連用形接続」とするところかと思う。何か意図はあるのか。

［授業者］ある。「未然形接続」は助動詞の中でいちばん多いものであるということ，「終止形接続」はやや特殊な接続をする意味でということで，真っ先に覚えてもらうようにしている。生徒が助動詞を学習する中で戸惑うものの１つがこの“接続”についてだと考え，この２つの接続を確定し，半分以上の接続を身につけたらあとはなんとかなるはずという意図のもと，進めている。

［青森商業高校･藤田先生］“紙辞書”を持たせていないようだが，その弊害のようなことは出ていないか。単語「こちなし」や授業の中で取り扱っていない助動詞を目にした生徒たちは，(どう調べていけばいいのかという)戸惑いがあったように感じる。読解の軸になる「こちなし」を調べさせるだけで，あとの要素はすべて提示したほうが却ってよかったのではないか。

［授業者］そのとおりである。助動詞を学習しているという手前，初見のものについても一度確認する機会を持たせたかったのだが，この授業の意図したところから外れていた。反省材料である。

4　意見交換

（1）「助動詞」をどう扱うか？

［司会者］ここで参加の皆様に問いかけたい。各校．助動詞を取り扱うとすれば１年のこの時期と考えられるが，(２・３年と進級した際に)定着している実感はあるだろうか。

［大湊高校･高田先生］正直，学年が上がっても定着しているとは言えず，むしろ後退しているのではないかと思われる場合もある。動詞，形容詞，形容動詞を含めた復習をしながら受験期に何とか間に合わせている状態である。

［授業者］今の実感としては，定着まで時間がかかりそうだという感がある。動詞，形容詞，形容動詞の定着にも時間がかかったところを見ると，そう感じる。今後の展開をどうするか，生徒の定着を図りながら考えたい。

［司会者］助動詞を定着させる取り組みとして先生方からアイディアを提供してもらい，共有したい。

［弘前工業高校･赤平先生］空欄にした「助動詞活用表」を配布し，何度も書かせて定着させた経験はある。

［三沢高校･菅原先生］本日のように，読解教材を主軸にしながら「読んで定着させたい」ところである。ただ，やはり【知識･技能】が気になり，先に持ってくる場合が多い。

［青森東高校･倉内先生］自分は現在，３年生を担当しているが，現実のところ助動詞をはじめとした文法事項の定着には不安要素がつきまとう。そういう意味で読解教材を用いながら，という今日の授業は興味深かったが内容が盛り沢山で生徒たちには処理しきれていない部分も多かったように感じる(例：「詠嘆」の説明など)。むしろ『伊勢物語』の冒頭に「けり」の３連発が用いられているので，そちらを先に示してから本日の内容に入ったほうが早い時期からの“読解教材を使った定着”が図れるのではないかと感じた。レベルの高いところであるが，伊勢物語の研究者である小松英雄先生の研究書を生徒に示し考えさせるなど，教材の精選が肝要ではないか。

［八戸北高校･種市校長先生］「生徒への問いかけ」とともに「生徒からの問いかけ」を大事にすると，お互いに気づきが多くなるのではないか。「どちらの活用を使ったほうがうまく行きそうだ？」という問いかけをすると，確かに時間はかかるが定着の度合いはかなりなものだったという実感がある。

（2）古典教材にどう向き合わせるか？

［司会者］古典教材に対し，今の生徒をどう向き合わせるか。先生方に問いかけたい。

［鰺ヶ沢高校･長谷川先生］本校は古典を受験に使う生徒がほとんどいないが，やはり口頭だけでは，授業でいま何が行われているのか把握できていないことさえある。結果，毎時間ごとに授業で取り扱う内容について，電子機器を用いた“視覚に訴える方法”で示しながら進めているのが現状である。

［六ヶ所高校･蛯名校長先生］今の生徒たちは小･中学校にかけて ICT を取り入れた授業を受けているのが当たり前になっている。それを用いない方法はない。「何ページの○○」という指示より，「この画面はテキストの何ページだ」としたほうがスムーズであろう。

5　助言者より

助動詞(き･けり)の「職能」についての説明を丁寧に挟んでいたのは評価できるところだ。古典文法を学びながら，生徒たちが現在自ら使っていることばについても意識下に置ける説明になっていたのではないか。「詠嘆」の意味についての成り立ちを，生徒たちの印象に残るよう工夫していたのもうなずける。これを現代語の『何だっけ？』の「け」について「疑問」・「過去」・「詠嘆」の関係性で示すと，より効果的だったのではないか。　ただ，iPad などの機器を使わせ，調べ学習をする際には，検索した段階で先に出てくる“goo 辞書”や“コトバンク”などの，元々“紙辞書”で典拠のある(信頼度の高い)ものを利用させるようにしてもらいたい。Yahoo 検索･Google 検索にばかり頼ると，時に得体の知れないものにあたる場合もあるので注意させたい。いずれにせよ，中身の濃い授業であったと思われる。参考になった。

部　会　の　動　き

１　令和６年度　青森県高等学校教育研究会国語部会第１回役員会
　期　日　　令和６年６月１１日（火）
　場　所　　オンライン
　案　件　　令和６年度役員改選及び承認
　　令和５年度庶務報告
　　令和５年度監査報告、決算報告
　　令和６年度予算案審議、事業計画

２　令和６年度　青森県小・中・高国語教育研究協議会第１回理事会・研修会
　期　日　　未定
　場　所　　未定
　案　件　　各部会活動状況報告
　　令和５年度庶務報告
　　令和５年度監査報告、決算報告
　　令和６年度予算案審議、事業計画

３　令和６年度青森県高等学校教育研究会国語部会研究大会及び総会
　期　日　　令和６年８月２０日（火）
　場　所　　青森県立五所川原高等学校

４　高教研国語部会　　各地区大会（下記は担当校）
　西地区　　五所川原高校（※県大会を兼ねる）
　中地区　　青森北高校
　東地区　　三本木農業恵拓高校

５　令和６年度東北地区国語教育研究協議会　第１回役員会・研修会
　期　日　　令和６年１１月７日（木）
　場　所　　未定

６　第６９回東北地区国語教育研究協議会　秋田大会
　研究主題　ひらかれた国語教育の創造
　　～次世代を担う生徒の確かな「言葉の力」を育成する授業の実践～
　期　日　　令和６年１１月８日（金）
　場　所　　秋田県立秋田南高等学校

７　令和６年度　青森県高等学校教育研究会国語部会第２回役員会
　期　日　　未定（例年は１月～２月）
　場　所　　未定
　案　件　　令和６年度庶務確認、中間収支決算報告
　　令和７年度予算案審議及び事業計画案、県大会実施内容

８　令和６年度　青森県小・中・高国語教育研究協議会第２回理事会・研修会
　期　日　　未定
　場　所　　未定
　案　件　　各部会活動状況報告
　　令和６年度庶務・中間決算報告
　　令和７年度予算案審議及び事業計画案
　　東北国研役員会報告

研　究　テ　ー　マ

紀要(集)	年度	研　究　テ　ー　マ	会　場	会員数(一・二希望計)	大会参加数	大会発表者数
36	平成３	○豊かな国語力を養う学習指導をめざして	青森高校	408	263	6
37	4	○国語の力を高めるための効果的な学習指導のあり方	東奥義塾高校	409	247	2
38	5	○的確な読解と豊かな表現の指導を求めて	八戸南高校	390	227	2
39	6	○興味を持たせるための国語の学習指導	青森北高校	243	232	2
40	7	○主体性を育む国語教育の学習指導	弘前南高校	387	236	2
41	8	○新しい学力観に立つ学習指導	青森中央高校	372	205	2
42	9	○豊かな国語力を育む学習指導を求めて	八戸高校	393	267	6
43	10	○学力充実を図るための指導法を求めて	五所川原高校	367	166	2
44	11	○基礎学力の定着と応用力の充実をめざす学習指導	青森戸山高校	393	193	2
45	12	○確かな国語力を育てる学習指導のあり方	八戸西高校	377	168	2
46	13	○自ら学び自ら考える力の育成をめざして ―生きる力の指導法を探る―	黒石高校	357	170	2
47	14	○国語の力を高めるための学習指導を目指して	青森東高校	353	174	2
48	15	○生きてはたらく国語の力～不易流行の視点から	弘前高校	342	180	3
49	16	○豊かな国語力を育む学習指導のあり方	三沢高校	344	123	2
50	17	○「生きる力」と「夢」を問える国語力を求めて	青森南高校	322	138	2
51	18	○「確かな国語力」の充実を目指して	八戸東高校	297	125	2
52	19	○豊かな表現力と確かな読解力を高める授業を目指して	弘前学院聖愛高校	294	134	2
53	20	○確かな国語力と思考力の向上を目指して	田名部高校	300	103	2
54	21	○確かな国語の力をはぐくむ指導の在り方	青森高校	255	139	6
55	22	○人の中の国語　国語の中の人	木造高校	255	110	2
56	23	○「国語」の遠近法－俯瞰と回遊－	青森西高校	308	112	2
57	24	○伝え合う力を高める言語活動の充実を目指して	三本木高校	298	99	2
58	25	○「ことば」を大切にする国語教育の充実を目指して	弘前中央高校	298	134	2
59	26	○「言語活動」で引き出す主体的な学び	青森北高校	285	115	2
60	27	○確かなことばの力をはぐくむ国語学習 －思考力・表現力を高める言語活動の充実を通して－	八戸高校	273	146	6
61	28	○感じる力、考える力、伝え合う力を高める国語学習をめざして	東奥義塾高校	267	115	6
62	29	“新しい学力”を錬成する“新しい学び”の探究	青森中央高校	264	106	2
63	30	○新しい時代に必要となる資質・能力を育む国語教育を目指して	八戸北高校	248	107	2
64	1	○「言葉による見方・考え方」を働かせる国語科授業の創造	弘前南高校	264	127	2
65	3	○「確かで豊かな学びの創造 ―「言葉による見方・考え方」を働かせて―	ＷＥＢ開催	245	多数	1
66	4	○「ことばの力」を育み「学びの実感」ができる国語学習をめざして	八戸西高校	224	87	2
67	5	○変化する社会に主体的に対応できる“資質・能力”の育成～ことばによる見方考え方を働かせて～	アピオあおもり	231	76	2
68	6	○たしかな「ことばの力」で、資質・能力の向上をめざして	五所川原高校	220	69	2